

令和元年第2回竜王町議会定例会（第4号）

令和元年6月20日

午後1時00分開議

於 議 場

1 議 事 日 程

- 日程第 1 議第31号 令和元年度竜王町一般会計補正予算（第1号）
（予算決算常任委員会委員長報告）
- 日程第 2 議第32号 令和元年度竜王町介護保険特別会計補正予算（第1号）
（予算決算常任委員会委員長報告）
- 日程第 3 議第33号 令和元年度竜王町下水道事業会計補正予算（第1号）
（予算決算常任委員会委員長報告）
- 日程第 4 議会広報特別委員会委員長報告
- 日程第 5 地域活性化特別委員会委員長報告
- 日程第 6 所管事務調査報告
（議会運営委員会委員長報告）
（総務産業建設常任委員会委員長報告）
（教育民生常任委員会委員長報告）
- 日程第 7 議員派遣について
- 日程第 8 委員会の閉会中の継続調査の申出について

2 会議に出席した議員（12名）

1番	菱田三男	2番	小西久次
3番	若井猛志	4番	森島芳男
5番	森山敏夫	6番	内山英作
7番	松浦博	8番	古株克彦
9番	貴多正幸	10番	山田義明
11番	岡山富男	12番	小森重剛

3 会議に欠席した議員（なし）

4 地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者

町長	西田秀治	教育委員会教育長	甲津和寿
副町長	杼木栄司	総務主監	山添みゆき
住民福祉主監	奥浩市	産業建設主監	井口和人
会計管理者	小森久美子	総務課長	川嶋正明
未来創造課長	関司明德	税務課長	西川良浩
生活安全課長	寺嶋要	住民課長	森岡道友
福祉課長	間宮泰樹	健康推進課長	中原江理
発達支援課長	西村忠晃	農業振興課長	中山孝彦
商工観光課長	岩田宏之	建設計画課長	森徳男
上下水道課長	込山佳寛	教育次長兼 生涯学習課長	井口清幸
教育総務課長	町田啓司	学校教育課長	武久雅則

5 職務のため議場に出席した者

議会事務局長	知禿雅仁	書記	中野ゆかり
--------	------	----	-------

開議 午後1時00分

○議長（小森重剛） 皆さん、こんにちは。

ただいまの出席議員数は、12人であります。よって、定足数に達しておりますので、これより、令和元年第2回竜王町議会定例会を再開いたします。

これより、本日の会議を開きます。

皆さんのお手元に、株式会社みらいパーク竜王の事業報告、経営状況等を説明する書類を配付いたしましたので、よろしく願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

それでは、これより議事に入ります。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第 1 議第 3 1 号 令和元年度竜王町一般会計補正予算（第1号）

（予算決算常任委員会委員長報告）

日程第 2 議第 3 2 号 令和元年度竜王町介護保険特別会計補正予算（第1号）

（予算決算常任委員会委員長報告）

日程第 3 議第 3 3 号 令和元年度竜王町下水道事業会計補正予算（第1号）

（予算決算常任委員会委員長報告）

○議長（小森重剛） 日程第1 議第31号、令和元年度竜王町一般会計補正予算（第1号）から日程第3 議第33号、令和元年度竜王町下水道事業会計補正予算（第1号）の3議案を一括議題といたします。

本案は、予算決算常任委員会に審査を付託しておきましたので、その審査の経過と結果について委員長より報告を求めます。

予算決算常任委員会委員長、松浦 博議員。

○予算決算常任委員会委員長（松浦 博） 議第31号から議第33号、予算決算常任委員会報告。

令和元年6月20日

委員長 松浦 博

去る6月11日の本会議において、本委員会に審査の付託を受けました議第31号から議第33号までの、令和元年度竜王町一般会計補正予算（第1号）、令和元年度竜王町介護保険特別会計補正予算（第1号）及び令和元年度竜王町下水道事業会計補正予算（第1号）の合計3議案について、審査の経過と結果を報告します。

本委員会は、6月14日午前10時30分より、301会議室において委員全

員出席のもと、杼木副町長、甲津教育長、関係主監、次長及び関係職員の出席を求め、説明を受け審査いたしました。

1、議第31号、令和元年度竜王町一般会計補正予算（第1号）は、既決の歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ3,282万1,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ64億5,682万1,000円に改めるものです。

主な質疑応答は。

総務部門。

問) プレミアム商品券の転売防止のため、販売店には対象者情報はあるのか。

答) 今回は、低所得者・子育て世帯に限定されているため、個人情報保護の観点から、商品券を持っている方が対象者として取り扱います。

問) 公用車にドライブレコーダーをつけるのか。

答) 警察から要望があり、新規購入の公用車にはセットするが、現有車については、検討中である。

産業建設部門。

質疑は特にありませんでした。

教育委員会部門。

問) 外国人の子どもの転入と学校での状況は。

答) ことし3月に2名が転入し、言葉の対策として、県より日本語の指導ができる非常勤講師の派遣を週2回受けている。さらに「外国人いきいきサポート事業」で非常勤講師を申請しており、合計2名の非常勤講師が竜王小学校に派遣されている。

問) 預かり保育は無償となるのか。

答) 両親とも就労している場合は無償、父・母いずれかが専業主婦（夫）等の場合は、対象外となる。

住民福祉部門。

問) 風疹予防接種で対象者を39歳から56歳に限定している理由と、対象外の世代は予防接種する必要がないのか。

答) 対象である39歳から56歳の男性については、今までに一度も風疹の予防接種を受けたことがない年齢層であることと、年齢層全体に抗体の保有率を見たときに、この年齢層は80%しか抗体を持っていないと統計上判明している。ほかの年齢層では、90%前後抗体があるため、2020年7月には、対象年齢

の方の抗体を85%にするべく、無償で定期接種の対象としていく。

2、議第32号、令和元年度竜王町介護保険特別会計補正予算（第1号）は、既決の歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ395万1,000円を組みかえし、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ9億9,330万円とするものです。

主な質疑応答は。

問) 10月からの消費税増税による補正予算であるが、令和2年度も同じ率となるのか。

答) 10月から改正の軽減率で始めて、国の軽減措置の基準に合わせて令和2年度まで実施します。

議第33号、令和元年度竜王町下水道事業会計補正予算（第1号）は、既決の歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ276万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ5億2,342万9,000円に改めるものです。

主な質疑応答は。

問) 農村下水道使用料の改正を早急にするべきではないか。

答) 規則の改正は課題としてあるため、本定例会の会期中に話ができるように進めていきたい。なお、料金に係る改正なので、地元や上下水道事業運営委員会等とも協議し進めていかなければいけないと認識している。

予算決算常任委員会の意見。

地方公共団体が法的にすべき責務において、今回の補正にかかわる要因について、公正・公平な改善処置を早急に対処されるよう求める。

以上、慎重審査の結果、議第31号、32号は全員賛成、議第33号は賛成多数にて、原案のとおり可決するべきものと決しましたので報告いたします。

**○議長（小森重剛）** ただいま、予算決算常任委員会委員長より、審査の経過と結果の報告がございました。

これより、委員長報告に対する質疑に入ります。

質疑ありませんか。

[「なし」の声あり]

**○議長（小森重剛）** ないようでありますので、質疑はこれで終結いたします。

これより、討論に入ります。

討論ありませんか。

[「なし」の声あり]

○議長（小森重剛） ないようでありますので、討論はこれで終結いたします。

これより、採決を行います。

採決は1議案ごとに行います。

お諮りいたします。

日程第1 議第3 1号を委員長報告のとおり決定することに賛成諸君の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（小森重剛） 起立全員であります。

よって、日程第1 議第3 1号は委員長報告のとおり可決されました。

日程第2 議第3 2号を委員長報告のとおり決定することに賛成諸君の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（小森重剛） 起立全員であります。

よって、日程第2 議第3 2号は委員長報告のとおり可決されました。

日程第3 議第3 3号を委員長報告のとおり決定することに賛成諸君の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（小森重剛） 起立多数であります。

よって、日程第3 議第3 3号は委員長報告のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第 4 議会広報特別委員会委員長報告

○議長（小森重剛） 日程第4 議会広報特別委員会委員長報告を議題といたします。

議会広報特別委員会委員長、内山英作議員。

○議会広報特別委員会委員長（内山英作） 議会広報特別委員会報告。

令和元年6月20日

委員長 内山 英作

本委員会は、3月28日に彦根市で開催された滋賀県町村議会広報研修会に参加し、「読者目線で親切的な広報誌を作るには」と題して、「月刊総務」編集長の豊田健一氏の講演を聞き、その後、同氏より「町議会広報クリニック」を受けました。

次に、本委員会は、平成31年第1回定例会閉会後の4月1日、8日、12日、17日に委員会を開催、議会だより187号の編集作業をし、5月1日に発行しました。

主な記事の内容は、平成30年度一般会計補正予算、平成31年度一般会計予算、コンパクトシティ化検討事業、委員会活動、一般質問、追跡コーナー、いきいき人生などです。

次に、本委員会は、本定例会中の6月11日、委員会を開催し、前回の編集作業に基づいて反省点を確認しました。その後、発行する議会だより188号の編集内容について協議し、ページ数の決定、原稿作成の役割分担及び編集日程を決めました。なお、編集のための委員会は、定例会閉会後の6月26日、7月3日、10日、17日の4日間開催し、8月1日に発行することを決定しました。

また、本委員会は、7月11日に兵庫県播磨町議会より、議会だよりの編集・発行についての研修受け入れを予定しています。

以上、議会広報特別委員会報告といたします。

○議長（小森重剛） ただいまの議会広報特別委員会委員長報告に対して、質疑がありましたら発言願います。

[「なし」の声あり]

○議長（小森重剛） ないようでありますので、議会広報特別委員会委員長報告はこれで終結いたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

#### 日程第5 地域活性化特別委員会委員長報告

○議長（小森重剛） 日程第5 地域活性化特別委員会委員長報告を議題といたします。

地域活性化特別委員会委員長、貴多正幸議員。

○地域活性化特別委員会委員長（貴多正幸） 地域活性化特別委員会報告。

令和元年6月20日

委員長 貴多 正幸

本委員会は、6月14日午前9時より委員全員出席のもと、町執行部より西田町長、井口産業建設主監及び関係課長等の出席を求め、調査を行いました。

1、空き家対策について。

特定空き家の認定基準を先進自治体等の事例を参考に策定していくこと、空き家等の利活用に向けて、流通の円滑化のための宅建協会等の関係団体と空き家等

情報バンク設置に向けた協議を行うこと、空き家数及び空き地等を把握するため、自治会長に調査を依頼すること等、また、竜王町住まい助成制度の現状報告（令和元年6月11日現在）の説明を受けた。

主な質疑応答。

問) つぶれかけて使用できないような空き家の数はつかんでいるのか。

答) 使用できないレベルもさまざまかと思いますが、自治会へ調査を依頼しているときに、その空き家の状況、管理の状況も一緒に聞いています。その中でいよいよひどいような区分になる空き家の数は、把握しています。

問) 空き家で売り物件となっていたものを壊して新築とした場合、竜王町住まい助成制度の対象となるのか。

答) 空き家の解消となる場合は対象となり、新築分に空き家利用・解消の加算をさせていただきます。

2、滋賀山面工業団地の進捗について。

滋賀山面工業団地の進捗について、執行部、並びに株式会社雪国まいたけの足利社長、柳井センター長同席のもと、9区画全てにおいて売買契約が締結したとの報告を受けた。

以上、地域活性化特別委員会報告とします。

○議長（小森重剛） ただいまの地域活性化特別委員会委員長報告に対して、質疑がありましたら発言願います。

[「なし」の声あり]

○議長（小森重剛） ないようでありますので、地域活性化特別委員会委員長報告はこれで終結いたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第6 所管事務調査報告

（議会運営委員会委員長報告）

（総務産業建設常任委員会委員長報告）

（教育民生常任委員会委員長報告）

○議長（小森重剛） 日程第6 所管事務調査報告を議題といたします。

各委員長より報告を求めます。

議会運営委員会委員長、小西久次議員。

○議会運営委員会委員長（小西久次） 議会運営委員会報告。

令和元年6月20日

委員長 小西 久次

本委員会は、4月26日午後4時より、第1委員会室において委員全員出席のもと委員会を開催し、令和元年第2回定例会について協議し、日程案を作成しました。また、議会報告会の開催について協議を行い、今年度は町議会議員選挙も予定されているため、今期16期は中止としました。

また、「辺野古新基地建設の即時中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について、国民的議論により、民主主義及び憲法に基づき公正に解決するべきとする意見書の採択を求める陳情書」の取り扱いについて協議し、議員全員に依頼文の写しを配付し、周知を図ることに決定しました。

次に、本委員会は、5月27日午前9時より、第1委員会室において委員全員出席のもと委員会を開催し、執行部より杼木副町長、山添総務主監、川嶋総務課長ほか、担当職員の出席を求め、令和元年第2回定例会の提案事件について執行部より説明を受けました。今回提案される案件は、専決処分2件、条例改正1件、補正予算3件、その他2件、報告事項2件の計10件です。

また、同議事の進行について審議し、会議録署名議員の指名、会期を6月4日から6月20日までの17日間とすること及び議案の処理について審査決定しました。

その他、4月26日の本委員会で取り扱いを決定した「辺野古新基地建設の即時中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について、国民的議論により、民主主義及び憲法に基づき公平に解決するべきとする意見書の採択を求める請願書」について、新たに異なる依頼者から陳情書が提出されたため、この取り扱いについて協議し、議員全員に依頼文の写しを配付し、周知を図ることに決定しました。

次に、本委員会は、6月6日午前9時より、第1委員会室において委員全員出席のもと委員会を開催し、令和元年第2回定例会第3日の一般質問、10議員から提出された12質問について審議し、会議の再開時間及び質問の順序等を審査決定しました。第3日の会議は午前9時から再開し、会議は通しで行い、会議時間の延長もあり得ること及び質問の順序は質問通告書の提出順とすることに決定しました。

また、「米軍普天間飛行場の辺野古移設を促進する意見書に関する陳情書」の取り扱いについて協議し、議員全員に依頼文の写しを配付し、周知を図ることに決定しました。

以上、議会運営委員会報告とします。

○議長（小森重剛） 次に、総務産業建設常任委員会委員長、古株克彦議員。

○総務産業建設常任委員会委員長（古株克彦） 総務産業建設常任委員会所管事務調査報告。

令和元年6月20日

委員長 古株 克彦

本委員会は、閉会中の4月9日午後1時より委員全員出席のもと、5月16日の行政視察研修のテーマであります、「日本一の子育て村構想を核とした定住促進の取組について」の事前学習を行い、研修当日午後2時より、委員6名、町職員3名の参加のもと、その先進地である島根県邑南町で視察研修を行いました。

島根県邑南町は、島根県の中央部で盆地の多い地形、標高100メートルから600メートル、面積は419.22キロ平方メートル、竜王町の約9倍（ただし山林が86%）、人口が約1万1,000人、高齢化率が44.1%、主な産業は農林業の町です。

邑南町では、「人口減少に歯止めを掛ける」3つの構想を打ち立てた。

1、A級グルメ構想。

平成23年に、全国で初めて農林商工等連携ビジョンの策定。

数値目標として、食と農に関する5名の起業家の輩出。平成27年度末で27名。

定住人口200名の確保。平成27年度末で213名。

観光入り込み客数100万人の実現。平成27年度末で92万人。

2、日本一の子育て村構想。

保健事業では、今では多くの行政が取り組んでいる中学校卒業までの医療費の無料化を早くから取り組み、妊婦歯科健診費用助成等各種費用の助成を実施してきた。

福祉関係では、第2子目以降の保育料、保育所の給食費、放課後児童クラブ、病児保育・延長保育・一時保育・障害児保育等を全て無料化して取り組んだ結果、平成27年に、合計特殊出生率2.46%、出生数70名を達成する。

3、徹底した移住者ケア構想。

日本一の子育て村構想等による移住者ケアは、A級グルメ構想により、地域おこし協力隊を中心に、食と農による起業家を多く輩出してきた。

平成27年には、邑南町へのU・Iターン者は100名に達し、その内20代から30代の女性が26名で全体の4分の1を占め、20代から30代の女性の

Iターン者は4割であった。

邑南町の30代の女性は、邑南町12公民館の地区で、平成28年には平成23年と比べて増加した地区が8地区、増減なしで維持した地区が1地区、5名以内の減少した地区が3地区と相対的に増加し、合計特殊出生率2.46%達成したことにつながっている。

視察の感想といたしまして、日本一の子育て村構想とA級グルメ構想が相まって、全国的に邑南町の知名度が上がり、若者を引きつける魅力が高まったのではないかと。

また、受け入れる側も、若い人たちが夢と希望を持って移住してくるので、それを気持ちよく受け入れている。さらに定住してもらえるためのケアをしていく住民の意識改革と行政に頼らない地域コミュニティの自立促進をしていかなければならないということで、今まさに、竜王町が取り組んでいるまちづくりの先端を走っているのだから、大いに参考になりました。

本委員会は、6月13日午後1時より、第1委員会室において委員全員出席のもと、西田町長、山添総務主監、図司未来創造課長及び関係職員の出席を求め、所管事務調査を行いました。

1、コンパクトシティ化構想（案）等の整理状況及び意見聴取の予定について。

①整理状況。

竜王町コンパクトシティ化構想（案）10年後の中心核構想。

テーマとして、「子どもたちの未来へ贈る 竜王2030プロジェクト」、サブテーマは、「子どもと暮らす喜びを実感できるまちづくり」として、役場周辺の北側に交流・文教ゾーン、複合ゾーン、商業ゾーン、居住ゾーン、行政ゾーンとゾーン分けをし、それぞれのゾーンに入る施設整理をした。

竜王町ランドデザイン構想（案）については、テーマとして、「未来へ 竜王2050プロジェクト」。サブテーマは、「竜王の原風景に抱かれた安全でテクノロジーなまちづくり」。30年後の理想の姿として5つのテーマを掲げ、テーマごとのそれぞれ目標を設定して整理した。

②意見交換会の予定。

コンパクトシティ化構想（案）・ランドデザイン構想（案）を町全体で共有し、広く対話する中で、町民、地域の生の声を聞き、さらに熟度の高い構想とする。

2つの構想（案）に対して、自分自身がかかわれることについて意見交換する

ことで、2つの構想（案）が行政だけでなく、町民をはじめとするみんなで進めるものとする。

以上のポイントを捉えた意見交換会を、令和元年7月25日から8月5日のうち5日間、町内5カ所で実施する。

主な質疑応答。

問) 地域へ説明するときに、行政として、このようにするというを先に説明するのか、また、まだこと限定せずに協議しながら決定するのか。

答) 基本的には、まちづくり中で中心核が見える化する必要がある。各自治会から出ている移動手段の確保、バランスのとれたまちづくりをしていかなければいけない。このことについて賛同いただけるか、また、必要と感じていただけるかが一番。10年後、20年後、30年後の竜王町をどうしていくのか提案して、町民の方に理解していただき、決断していく意味でその説明をし、意見を聞かせてもらう。同意形成を図ることが今回の大きなテーマです。

問) 農振除外をすることができるのか。

答) 優良農地を中心核として変えていくことを、町民の合意を得た上で折衝していきたい。除外できなくて今の場所に戻るということは、選択肢に入っていない。

2、第六次総合計画の進め方について。

①竜王町第六次総合計画策定支援業務。

業務委託業者は、6月12日にプロポーザルで決定します。

②計画策定の趣旨。

第五次竜王町総合計画の計画期間は、平成23年度から平成32年度までとなっており、今日の人口減少、高齢化社会、第4次産業革命などさまざまな社会情勢の変化や第五次総合計画の進捗状況の評価を行い、その結果を踏まえ、おおむね10年後の竜王町のあるべき姿を考え、その実現に向けてまちづくりを進めていくための総合的な指針として、第六次総合計画を策定する。

③計画の位置づけとして、根拠法令に基づき町の最上位の計画である。総合計画は行政運営の基本方針であり、全分野の政策の基本指針となるもので、事業の優先順位づけや行政資源の効果的、かつ効率的な配分など、中長期的な方向性を示す。

④計画策定の体制については、総合計画審議会や庁内体制として、策定委員会・ワーキングチーム、住民の参画として町民ワークショップの実施をする。

⑤計画策定に向けて今年度実施することは、現状把握調査、住民意向調査、庁内各課ヒアリング、地域・団体・学校・企業等のヒアリングの実施。

主な質疑応答。

コンパクトシティ化も総合計画も10年であるのに、なぜコンパクトシティ化の文言が第六次総合計画策定の趣旨等に全くないのか。

答) 総合計画は、コンパクトシティ化構想とランドデザイン構想と整合を図って策定していることから、コンパクトシティ化を入れた説明書にまとめ直して、全員協議会に提出します。

問) 第五次総合計画と第六次総合計画の施策で、大きく変わる内容は何か。

答) 第五次を作成する主なものは人口でした。この10年間、何とか人を減らさないための計画を策定した。現状を再度すり合わせたときに、今の目標がそれでよいのか、再度、見直す時期だと思いますし、人口が減る中で、次はどのようなまちづくりをするかを調整する時期でもあります。その1つに、コンパクトシティ化も大きな取り組みだと思います。

以上、総務産業建設常任委員会所管事務調査報告といたします。

○議長（小森重剛） 次に、教育民生常任委員会委員長、山田義明議員。

○教育民生常任委員会委員長（山田義明） 教育民生常任委員会所管事務調査報告。

令和元年6月20日

委員長 山田 義明

本委員会は、4月9日午後1時より、第1委員会室において委員全員出席のもと、5月23日、24日の行政視察研修のテーマである、「認知症の取り組みについて」の事前学習を行いました。

竜王町においては、高齢者保健福祉計画及び第7期介護保険事業計画の方針の1つとして、認知症支援の充実を図るため、認知症地域支援推進員による認知症への正しい理解の啓発、認知症初期集中支援チームによる身近な相談支援体制の構築、認知症カフェによる介護者への精神的サポートの取り組みを学習しました。

今後、高齢化が進む本町の介護予防への取り組みをより充実させるため、本委員会は、その参考となる先進地である東京都町田市へ視察研修を行った。

主な調査内容は次のとおりです。

1、自主グループ育成の事業については、地域高齢者を対象とした、認知症発症の遅延化を狙いとした「脳いきいき教室」を展開されている。

参加者が脳機能検査を受けた後、ウォーキング（有酸素運動）、旅行・料理

(知的活動) から選択したテーマを5日間プログラムとして学び、半年後に再度、脳機能検査を受けて効果を測定するものである。その後、教室の参加者は自主グループの活動へと移行し、市が養成したファシリテーターが活動の継続を支援し、行政・地域包括支援センターがグループのつながりや全体のまとめを行うことで、現在約80グループが活動し、グループ交流会なども行われている。

また、町田市を元気にするトレーニング(町トレ)については、心身の機能の維持・改善を図るため、参加者が週1回、町田市オリジナルのトレーニングを行い、介護予防につなげている。

町トレの自主グループの新規立ち上げ数は、2017年度が58団体、2018年度が54団体となっている。

2、各種相談については、「認知症電話相談事業」が一般市民、介護関係者を対象に、「物忘れ相談事業」や「臨床心理士による介護等相談」が認知症高齢者を介護している家族や不安を抱える認知症当事者を対象に、きめ細やかに行われている。

3、家族介護者教室、並びに交流会では、笑いヨガ、成年後見制度についての講座、福祉用具体験講座、薬剤師によるお薬講座、男女別介護者交流会などの開催が行われている。

4、認知症等による行方不明高齢者探索サービス事業では、行方不明になるおそれのある方には、「位置情報探索機器」(GPS)を活用したサービスの実施を行い、スマートフォンで探索が可能となることや親族等が同意できる方については、町名や氏名を公表し、協力機関へのFAX、防災無線により早期に探索できる事業が行われている。

5、認知症カフェ(Dカフェ)については、コーヒー店と提携し、市内8店舗全店で申し込み不要、飛び入り参加可能のDカフェを毎月開催し、一般の方への認知症に対する理解促進につなげている。

委員からの主な感想として、「認知症予防教室などの実施を通じ、自主グループ化、グループ交流会へと発展させ、市民への認知症予防に対する普及・啓発に力を入れておられ、活動を通して予防活動を実施しているところが参考になった」、また、「各活動を通じて自主グループへとつないでいく仕組みは、認知症の方々がみずから考え、自主活動をするようにしかけられている」、また、「自分自身、認知症はいつ発症するかわからないため、ならないための健康づくりの認識を、町民の方々に行き渡るように努めていきたい」、「GPSを活用したサ

ービスを実施することで、家族の負担軽減や行方不明高齢者の安全を確保されている、このことを、今後、竜王町でも検討する課題ではないかと思った」。

本委員会は、6月13日午前9時より、第1委員会室で執行部より西田町長、奥住民福祉主監、中原健康推進課長ほか担当職員の出席を求め、所管事務調査を実施しました。

竜王町の健康づくり活動について。

竜王町では、保健師活動の充実のため、平成27年より保健師活動の指針を定め、保健師の地区担当制の導入、体系的人材育成、統括保健師の配置の3つの柱をもとに推進してきた。

保健師の活動は、保健、医療、福祉、介護の部門で行っている。また、従来からの集落の特性を生かした持続可能な健康づくりが当たり前の行動に変わっていくしかけづくりを、住民とともに構築していくことも必要である。

りゅうおう健康ベジ7チャレンジ事業につきましては、重点テーマを5年間で全項目を実施し、1年目は栄養・食生活、2年目以降は栄養・食生活に加えて歯と口腔の健康、3年目はたばこ、心の健康づくり、4年目は運動、5年目は健診受診の促進、アルコールと設定した。今年度の重点取り組みは、血圧測定の習慣化や予防方法実践の啓発ポスターを作成し、公民館などに掲示の予定。また、カミチャレ30・ブックチャレ30も行う。

健康推進員の活動は。

竜王町では、今年度27地区において109名の推進員がおられ、ベジチャレの7つのテーマに沿って地区活動、全体活動を実施され、健康推進課主催では、4日間20時間の養成講座を20名が受講される。

また、組織強化のため、年3回の地区代表者会議により、活動数や活動地区も大きく増加し、栄養以外の取り組みもふえ、さらに地区担当保健師の介入で自分の地区という意識を持ち、健康問題への意識も高まり、活動計画に反映したりするようになってきた。

個別支援の状況では、母子保健、青年、成人、高齢者、障がい者（精神・知的・身体・難病）の方を対象とした中で、保健センターでは、面談、訪問、電話対応やケース会議、同行受診、医療連携、就労支援などの方法で対応している。

精神相談のケース支援実績は、年々増加の状態にある。また、ケース支援については、行政だけでは限界があるなどの説明があった。

主な質疑応答。

問) 今年度は、血圧測定を重点取り組みとして、血圧計の貸し出しをされているが、貸し出しの条件は。また、血圧計の設置はどこにしているのか。

答) 個人が継続して使用を希望される場合や各地区で大勢の方が参加され、1台では足りないときに貸し出しします。また、血圧計の設置は、庁舎1階の町民室、町公民館、町図書館、町保健センターと各ふれあいプラザです。

問) 運動ができてにくい環境の場合、運動より食事のほうが大事と聞くが、そのようにすることがよいのか。また、効果はどうか。

答) 運動を無理にして体を痛めたり、関節痛になりやすい高齢期においては、消化吸收の面もあるので、食事が大事と思われれます。それ以外の年代は両方とも大切です。

問) 「農作業は運動ではない」と聞くが、その解釈でよいのか。

答) 健康運動指導士は、身体活動も運動の一部に含まれていると言われているため、農作業も身体活動になると理解している。

以上、教育民生常任委員会所管事務調査報告といたします。

○議長(小森重剛) ただいま、各常任委員会委員長よりそれぞれ報告がございました。

この際、一括して委員長報告に対しての質疑がありましたら発言願います。

[「なし」の声あり]

○議長(小森重剛) ないようでありますので、各常任委員会委員長報告はこれで終結いたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

## 日程第7 議員派遣について

**○議長(小森重剛)** 日程第7 議員派遣についてを議題といたします。

お諮りいたします。

会議規則第126条の規定により、お手元に配付のとおり議員を派遣することにいたしたいと思っております。なお、緊急を要する場合は、議長においてこれを決定いたしたいと思っておりますが、これに御異議ありませんか。

[「異議なし」の声あり]

**○議長(小森重剛)** 御異議なしと認めます。よって、本件はそのように決定いたしました。なお、派遣された議員は、派遣の結果を議長まで報告していただくようお願いいたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第8 委員会の閉会中の継続調査の申出について

○議長（小森重剛） 日程第8 委員会の閉会中の継続調査の申出についてを議題といたします。

各委員長から、会議規則第75条の規定によって、お手元に配付いたしましたとおり、閉会中の所管事務等の継続調査の申し出があります。

お諮りいたします。

各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

[「異議なし」の声あり]

○議長（小森重剛） 御異議なしと認めます。よって、本件は各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

以上で、本日の議事日程は全部終了いたしました。

この際、町長より発言の申し出がございますので、これを認めることにいたします。

西田町長。

○町長（西田秀治） 令和元年第2回竜王町議会定例会の閉会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

議員各位には、去る6月4日から20日までの17日間にわたりまして慎重なる御審議を賜り、提案させていただきました議案に対しまして、全ての議案を可決いただきましたことに、衷心より厚く御礼を申し上げる次第でございます。

また、各委員会の場合や一般質問におきまして、議員各位から、公共交通システムの構築や健康増進に関する事、まちづくり事業の継続、道路・河川の整備、また教育・保育に関する事など多岐にわたっていただきました御意見、御指摘等につきましては、その対応に十分留意して今後の町政運営に当たってまいります。

さて、6月23日をもちまして、町長に就任して3年が経過することとなります。今後1年、これからの少子高齢社会を見据え、今こそ布石を打つべきときと確信し、10年後のコンパクトシティ化構想（案）、また、30年後のグランドデザイン構想（案）について議論を深め、さまざまな視点から検証を行ってまいります。

また、今後町内5カ所で開催する意見交換会を通じて、町民の皆様と情報共有、意見交換を重ね、次世代に誇れるまちづくりに向けて、その内容をより充実する

とともに、2つの構想（案）を行政だけで進めるものではなく、町民の皆様をはじめ、みんなで進めるものとなるようしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

次に、今後の予定に関しまして、御紹介をさせていただきます。

まず、7月には、竜王町総合体育大会、竜王町文月発表会の開催が予定されており、また8月3日には、ふるさと竜王夏まつりが開催されるなど、町民の皆様が主役となるイベントの開催がめじろ押しとなっております。ふるさと竜王の魅力の発掘と再発見、家族・地域での連帯感の強化、未来を担う子どもたちの思い出づくり、町の活力の結集と拡大につながればと願っております。

次に、今月18日午後10時22分ごろ、日本海の山形県沖を震源とする震度6強の強い地震が発生し、多くの方々が被災されました。一日も早い復興を祈念いたします。

また、今年、近畿地方は梅雨入りがおくれておりますが、近々に梅雨入りとなりますと集中豪雨等が心配されます。町民の方々に安心いただけるよう、安全確保に努めてまいります。

結びに、これから梅雨が明けますと夏本番を迎えますけれども、議員の皆様におかれましては、健康にくれぐれも御留意いただき、引き続き本町の発展のために御活躍いただきますよう御祈念申し上げまして、閉会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。まことにありがとうございました。

○議長（小森重剛） 閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

今期定例会は、去る6月4日に招集され、本日までの17日間にわたり開会いたしましたところ、議員各位におかれましては、御多用の中、連日にわたり御出席賜り、提案されました重要な案件につきまして慎重なる御審議をいただき、大変御苦労さまでございました。

また、執行部におかれましては、この間、適切なる対応をしていただきありがとうございました。議員各位、並びに執行部各位の御協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

本会議、並びに委員会において、各議員から述べられました意見や要望事項につきましても、特に考慮され、執行の上で十分反映されるようお願いする次第でございます。

さて、7月には参議院選挙が予定されています。我々の国をよりよくしていただける議員を我々が投票により選ぶ選挙です。竜王町の有権者が1人でも多く国

政に関心を持ち投票に行ってもらえるよう、啓発に努めていただきたいものです。

また、町内におきましては、各種団体の総会が終わり、いよいよ計画されます事業が動き出す時期になります。主なものには、総合体育大会、文月発表会、平和祈念式、ふるさと竜王夏祭り等が開催される予定です。これらの催しが令和元年にふさわしい新たな竜王町の一步となり、住民の記憶に残る催しになることを願うものです。

また、職員におかれましては、今年度の四半期が終わろうとしています、我々住民の目線からは、事業の事務遂行の危機感とスピーディさが見られません。職員1人当たりの事務量が多いことは、住民も理解されているものの、職員の計画性とその上に立つ幹部の的確な指導があれば、当然、スピーディな業務ができるはずであります。

そして、その先にこそ、職員が住民に安心・信頼してもらえるサービスと住民が、住みたい、住み続けたい、さらには、「竜王町っていいね」と住民発信につながるものです。

例年であれば梅雨本番の時期であります、本年は、近畿、関西ではまだ梅雨入りが発表されておりませんが、いよいよ本格的な夏を迎えることとなります。

議員各位、並びに執行部におかれましては、熱中症対策等、くれぐれもお体を御自愛いただき、町政の振興発展のために一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます、閉会に当たっての御挨拶といたします。

以上をもちまして、令和元年第2回竜王町議会定例会を閉会いたします。

大変御苦労さまでございました。

閉会 午後2時04分

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

竜王町議会議長 小 森 重 剛

議会議員 山 田 義 明

議会議員 岡 山 富 男